

いわて復興だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第194号
令和7年度第1号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開催

令和7年度 第1回いわて復興未来塾 開催

宮古市

MIYAKO

三陸地域の魅力を体感しながら東日本大震災津波からの教訓を学ぶことを目的に、令和7年度第1回「いわて復興未来塾」(併催：いわて三陸復興フォーラム)を、令和7年9月23日(火・祝)に、宮古市等で開催しました。県内外から53人の方が参加しました。

午前は「みちのく潮風トレイル in 浄土ヶ浜」と題して、三陸ジオパーク認定ガイドの案内により、みちのく潮風トレイルのルートをトレッキングしながら、三陸ジオパークのジオサイトである「浄土ヶ浜」や「蛸の浜周辺」を訪れました。

海と白岩が織りなす雄大な景観を背景に、ガイドから、約4,400万年前に遡る浄土ヶ浜の成り立ちや、東日本大震災津波が襲った当日の様子や痕跡の解説がありました。「眼前の巨大な岩と同じくらいの高さの津波が押し寄せた」との説明に、参加者からは驚きの声が上がりました。

午後は「三陸鉄道震災学習列車(宮古駅～鶴住居駅)」に乗り、三陸鉄道社員のガイドが、車窓から見える景色と被災時の写真等が掲載されたパネルを用いながら、

沿線の被災前の姿や被災直後の状況、復興した現在の街並みと残された課題等について、幼少期に自身が体験した震災津波の記憶を交えながら行う説明に、参加者は聞き入りました。

参加者からは、「岩手県沿岸部を初めて自分の目で見て、歩くことで復興の現在の状況、震災前と震災後の違いを実感することができた」、「現地に足を運び、地域の姿を目にすることで、自分の意識に変化があった」、「何度も三陸を訪れたい」等の感想が寄せられました。

また、若い世代の参加者からは、「(震災学習列車でガイドを務めた)社員の方が自分と同じ年齢で、当時どのように考えていたか、その思いを直接伺ったのが印象的だった」との感想をいただきました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課

☎019-629-6945

■令和7年度第2回「いわて復興未来塾」(11月22日(土) 大槌町市民交流センター おしゃっち(大槌町))の参加者を11月7日(金)まで募集しています。詳しくはHPをご覧ください➡



「みちのく潮風トレイル in 浄土ヶ浜」の様子



「三陸鉄道震災学習列車」の様子



開催

創造的復興サミット開催

兵庫県
HYOGO

阪神・淡路大震災から30年が経過したことを機に、単に被災前の状態に回復するのではなく、より良い復興を目指す「創造的復興」の理念を国内外に発信するため、兵庫県が主催する「創造的復興サミット」が令和7年9月20日(土)に開催され、国内外の被災自治体の首長等20名が参加しました。



サミットの様子

はじめに、兵庫県、宮城県及び石川県の高校生・大学生が、災害の経験と教訓を世代・地域を超えて継承していくための指針をまとめた「次世代の行動宣言」を発表し、続いて、出席した各被災自治体等から、復興の取組と今後の課題等について説明がありました。岩手県からは大畑復興防災部長が出席し、「安全の確保」「暮らしの再建」「なりわいの再生」「未来のための伝承・発信」の4本の柱に沿って復興に向けた取組状況等について説明しました。

サミットの最後には、被災自治体が連帯して、大規模災害の経験と教訓を、未来をつくる力に変えていくことを宣言する「創造的復興の理念を繋ぐひょうご宣言」を取りまとめ、公表しました。

■「創造的復興の理念を繋ぐひょうご宣言」全文



開催

「震災伝承施設」
深化の会開催東京都
TOKYO

(一財)3.11伝承ロード推進機構が、災害の自分事化に貢献し、より深く高みを目指した活動を行う震災伝承施設を紹介するため、令和7年8月30日(土)に「「震災伝承施設」深化の会～伝承活動による災害の自分事化に向けて～」を東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」で開催しました。参加者は、ライブ配信も含め、約200人となりました。

岩手・宮城・福島3県で伝承活動を展開している4施設が活動報告を行い、岩手県からは、釜石市の「いのちをつなぐ未来館」及び県の「東日本大震災津波伝承館」2施設が報告しました。

いのちをつなぐ未来館の報告では、川崎杏樹氏から、震災津波の教訓を伝承するための工夫として、楽しく学べる体験型の防災学習プログラム作りの説明、河東英宜氏から、復興ツーリズムを促進するためのアイデアとして、防災を核にマネジメントを学ぶ研修等、ターゲットを絞り込んだ特色ある取組の実施が提案されました。

また、東日本大震災津波伝承館の早坂寛副館長から、来館者が今後訪問する地域にある震災伝承施設や観光地等を紹介する等のゲートウェイとしての取組等を説明しました。



いのちをつなぐ未来館による活動報告の様子

■問い合わせ 一般財団法人3.11伝承ロード推進機構
☎022-393-4261

世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

東日本大震災津波伝承館では、令和7年2月22日(土)から8月28日(木)まで、令和6年度第4回企画展示「災害と水ー水道のない避難生活を生き抜くためにー」を開催し、大規模な災害が発生した後、命をつなぐために必要な備蓄の1つである水に関する基礎知識、災害と水の関係や、上手に水を備蓄する方法、水がない状況での代替手段など、次の災害への備えを紹介しました。

また、令和7年9月5日(金)から10月26日(日)まで、令和7年度第1回企画展示「高田松原からはじめる陸前高田の震災伝承施設巡り」を開催しています。

過去の様々な津波被害を受け、陸前高田市には、高田松原津波復興祈念公園をはじめ、震災の記憶と伝承を目的とした祈念碑や体験・展示施設など、多くの震災伝承施設が設けられてきたことから、高田松原を起点に陸前高田市で見学可能な震災伝承施設等を紹介しています。

国内外で大きな自然災害が起きていることもあり、ご覧いただいた皆さまからも災害への備えに対する関心の

高まりが伺えます。ご来館の際は、常設展示と合わせて、ぜひご覧ください。

東日本大震災津波伝承館では、今後も企画展示を通じて、東日本大震災津波伝承館の事実と教訓を多くの方々と共有しながら、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

なお、昨年度に実施した企画展示を、現在、岩手県立図書館内の震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」に設置していますので、ぜひご覧ください。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館
☎0192-47-4455



令和7年度第1回企画展示の様子

開催

「明治日本の産業革命遺産」 橋野鉄鉱山世界遺産登録10周年 記念式典・シンポジウム開催

釜石市
KAMAISHI

江戸時代末期に建設され、現存する国内最古の高炉跡である橋野鉄鉱山(釜石市)が「明治日本の産業革命遺産」の1つとして世界文化遺産に登録されてから10周年を迎えたことを記念し、シンポジウムが、令和7年7月12日(土)、釜石市民ホールTETTOで岩手県・釜石市主催により開催されました。

シンポジウムでは、河合 敦氏(歴史作家)が「幕末から明治の産業革命遺産」と題して基調講演し、興味・関心を促進するためのアイデアとして、VRの活用等を提案しました。また、森本晋也氏(岩手県立図書館長)、伊藤雅子氏(釜石観光ガイド会・三陸ジオパーク認定ガイド)、菊池のどか氏(震災津波語り部)をパネリストとして迎え、「釜石の鉄の歴史を活用する」をテーマにトークセッションが行われました。



トークセッションの様子

■問い合わせ 釜石市教育委員会文化財課世界遺産室
☎0193-27-7577

開催

令和7年度「三陸ジオパーク認定ガイド」 「エリアガイド」認定講座 開催

釜石市
KAMAISHI

三陸ジオパーク推進協議会では、観光客や地域住民に三陸ジオパークの魅力をわかりやすく伝える「三陸ジオパーク認定ガイド」や「エリアガイド」を養成するための認定講座を開催しています。

認定講座は年4回開催で、第2回講座は令和7年9月10日(水)に釜石市で開催され、自然体験活動における安全管理、三陸の海洋環境や気候変動、災害文化などを学ぶ講義が行われました。

災害文化の講義では、岩手大学地域防災研究センター坂口奈央准教授が、「もう必要ないのか?! 災害文化」と題して、ハード整備による防災だけでは限界があり日本の安全神話は揺らいでいること、三陸という津波常襲地域における、人間の寿命の何倍もの年月をかけて蓄積され、創意工夫がなされてきた生活の知恵や経験に学ぼうとする動きが3.11東日本大震災津波後に活発化している等、講義されました。

第3回講座は10月~11月、第4回講座は11月~12月に開催予定で、一般の方の受講も可能です。詳しくは、三陸ジオパーク推進協議会までお問い合わせください。

■問い合わせ 三陸ジオパーク推進協議会
☎0193-64-1230



開催

「ぼうさいこくたい2025 in 新潟」岩手県ブース出展

新潟県
NIIGATA

産学官民の関係者が日頃から行っている防災活動を発表し、交流することを目的に、内閣府等が主催する「ぼうさいこくたい2025 in 新潟(防災推進国民大会2025 in 新潟)」が令和7年9月6日(土)・7日(日)の2日間、新潟県新潟市で開催されました。

岩手県(復興防災部復興推進課)が出展したブースでは、東日本大震災津波からの復興の歩みや震災伝承団体等の活動をまとめたパネルを展示するとともに、震災津波関連資料を集めたデジタルアーカイブ「いわて震災津波アーカイブ~希望~」や県内の伝承施設・団体をまとめた伝承施設等紹介サイト「IWATE TSUTAERU」を紹介しました。約300人の方々に御来場いただきました。

その他、本県からは、三陸振興協議会(三陸地域で取り組まれている体験型学習プログラム等の紹介)と岩手県立図書館(震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」の活用事例紹介等)が出展し、それぞれの防災活動を紹介しました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

ぼうさいこくたい2025 ホームページはこちらから➡



話題

クルーズ船「飛鳥Ⅲ」 宮古港寄港

宮古市
MIYAKO

令和7年9月7日(日)、宮古港に国内最大級のクルーズ船「飛鳥Ⅲ」が寄港しました。飛鳥Ⅲは令和7年7月に就航したばかりの新造客船で、9月3日(水)に横浜港を出発後、青森港などを経て、宮古港に入港しました。本県への寄港はこれが初めてです。

寄港に当たり、約700人の宮古市民等が大漁旗や横断幕で出迎え、市内の小学生ダンスチームによるダンス披露や入港歓迎セレモニーが行われました。乗客は下船後、浄土ヶ浜や龍泉洞に立ち寄るツアーなどに参加し、三陸地域の魅力を体感しました。

岩手県では、宮古港や大船渡港で多くのクルーズ船を迎え入れており、令和7年度は18回の寄港を予定しています。



飛鳥Ⅲ



セレモニーの様子

■問い合わせ 岩手県県土整備部港湾空港課
☎019-629-5912



宮古市 災害資料伝承館



ホームページ


 いわて震災伝承施設
団体ガイド
IWATE
TSUTAERUの
紹介ページ

令和7年6月6日(金)、宮古市田老地区に震災伝承施設「宮古市災害資料伝承館」が開館しました。

館内には、東日本大震災津波を中心に、宮古市に被害をもたらした様々な自然災害に関する資料約130点が展示されています。東日本大震災津波の被害を受けた道路標識等の被災遺物や、田老防潮堤と防災まちづくりの歴史を解説するプロジェクションマッピング、これまでの災害の歴史を当時の資料や証言を交えながら紹介する展示により、自然災害の脅威とそこから得た教訓、必要となる備え等について学ぶことができます。

周辺では「田老防潮堤」や「津波遺構たろう観光ホテル」等の震災伝承施設を併せて巡ることができます。

場 所 岩手県宮古市田老字館が森129番地2
休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合は翌営業日)、年末年始
開館時間 9:00~17:00 **入 場 料** 無料
問い合わせ ☎0193-65-6852

※ウェブサイト「いわて震災伝承施設・団体ガイド IWATE TSUTAERU ~語り継ぐ未来のために~」では、他にも岩手県内の約40の震災伝承施設・団体を紹介しています。三陸地域の観光や教育旅行の検討の参考に、ぜひご覧ください▶



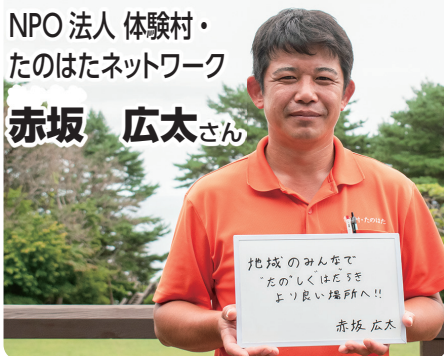
宮古市の災害に関する歴史を学ぶことができます



いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介しします。第140回は赤坂 広太さんをご紹介します

NPO 法人 体験村・
たのはたネットワーク
赤坂 広太さん



～ ガイドで伝える田野畑の復興 ～

PROFILE 田野畑村出身。高校卒業後、「ホテル羅賀荘」(田野畑村)等勤務を経て、平成24年からNPO 法人体験村・たのはたネットワークに勤務。自ら観光ガイドや語り部として活動するとともに、所属ガイドなどの取りまとめに従事。三陸ジオパーク認定ガイドや、みちのく潮風トレイルガイドとしても活躍。

震災津波を経て気付いた 「本当にやりたいこと」

地元・田野畑村を含む三陸地域全域を襲った東日本大震災津波。「自分が本当にやりたいことは何か、問い直すきっかけになった」と赤坂さんは語ります。かつて勤務したホテル羅賀荘での経験や、地域を盛り上げたいという思いから、観光関連の仕事を目指し、NPO法人体験村・たのはたネットワークに就職しました。

田野畑の魅力と 震災津波からの教訓を発信

同法人が提供するツアープログラムの中で、赤坂さんはガイド、また震災津波の語り部として、田野畑村の魅力とともに、震災津波からの教訓を伝えています。「自分は、直接津波を見たわけでも避難所に身を寄

せたわけでもない。ただ、震災前と後の町の様子は伝えることができる」最近では海外からの観光客も増えてきました。「3.11に日本で大きな地震と津波があったことは知っていても、実際の被害状況などは知らないことが多い。震災遺構などを巡りながら解説すると、とても驚きショックを受けている」一方、「知ることができて良かった、と言ってもらえることも多く、伝えることの大切さを実感している」と言います。

コロナ禍を経て、賑わいを取り戻しつつある田野畑村。「震災がきっかけではあるが、地元の魅力を再確認できたという点においては、今の仕事に出会えて良かったと思っている」。赤坂さんが再発見した魅力は、ガイドを通して、多くの人々に伝わり、感動を与えています。

岩手県の被害状況

令和7年9月30日現在

- 人的被害 死者：5,147人(余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,107人
- 建物被害(住家のみ、全半壊)26,079棟
被害状況等の詳細/義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和7年9月30日現在

- 義援金受付状況 約188億8,373万円(99,897件)
 - 寄附金受付状況 約211億495万円(30,164件)
 - いわての学び希望基金(※)受付状況 約108億6,606万円(29,207件)
- ※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第194号

令和7年10月27日発行 企画・発行/岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正/永代印刷株式会社

次回は令和8年3月の発行を予定しています。